



業務プロセス設計書

顧客のセキュアハッシュ算出

業務プロセス設計書の改訂履歴

日付	バージョン	役割	名前	組織	職務	備考
2017 年 9 月 28 日	1.0	ドラフト作 成	Olfa Ben Taarit	ACME Systems Inc.	SME	作成 V 1.0
2017 年 9 月 28 日	1.2	レビューア ー	Vrabie Stefan	UiPath	ビジネスアナリス ト	承認 V 1.0

目次

1.はじめに	3
1.1 本文書の目的	3
1.2 目的	3
1.3 プロセスに関する主な担当者	3
2.プロセス現況詳細	3
2.1 プロセス概要	4
2.2 プロセスマップ詳細	6
2.4 プロセス手順詳細	8
2.5.例外処理	10
2.6 エラーマッピングと処理	11
2.7 対象アプリケーション詳細	12
3.開発詳細	12
3.1 開発の前提条件	12
3.2 パスワードポリシー	12
3.3 資格情報とアセットの管理	12
4.文書の承認フロー	12
5.付録	13
5.1 UiPath 自動化プロセス詳細	13

1.はじめに

1.1 本文書の目的

業務プロセス設計書は、UiPath ロボティックプロセスオートメーション（RPA）テクノロジーを使用する、オートメーション用に選択された業務プロセスを記述するものです。

本文書では、当該プロセスの一部として実行する一連の手順のほか、自動化前の状態および要件を記述します。本文書は、同じ業務プロセスのロボティックオートメーション用に情報収集する開発者向けに、基本文書としての役割を果たします。

1.2 目的

このプロセスは、経理部門の **ACME Systems Inc.** で実施されている大規模プロジェクト計画の一環として RPA 用に選択されたものです。

このプロセス自動化は、プロジェクトのビジネスケースに関連しており、主に以下の項目を果たすことを目的としています。

- 処理の高速化
- 重複する作業の削減
- 全体的なパフォーマンスと信頼性の向上

1.3 業務プロセスの主な担当者

本文書は一連のプロセスの要件を簡潔かつ網羅的に記載しています。内容は当該プロセスにおける分野別専門家（SME）のインプットに基づきます。

エスカレーション先については以下の表で確認してください

役割	名前	実施日	メモ
プロセス SME	Aurel Vlaicu	未定	ビジネス例外およびパスワードに関する問い合わせ先
レビューアー/責任者	Sergiu Celibidache	未定	プロセス例外の POC

運用の承認	Nicoale Herlea	未定	エスカレーション、遅延
-------	----------------	----	-------------

2. 業務プロセス現況詳細

2.1 業務プロセス概要

RPA 実装対象として選択されたプロセスに関する、自動化前の基本情報

プロセス現況詳細	
プロセスの正式名称	顧客のセキュアハッシュ算出
機能	セキュリティ
部門	経理
プロセスに関する簡単な説明 (運用、作業、結果)	個人情報から各顧客のセキュアハッシュコードの算出
当該プロセスに必要なロール	ACME System 1 ユーザー
プロセスの実行スケジュール	日次
1 日あたりの処理件数	7～15 社（顧客）
件数あたりの平均処理時間	1 社あたり 2 分
ピーク時間	ピーク時間なし
この作業をサポートする FTE 数	1
例外率のレベル	想定される例外なし
入力データ	顧客データ
出力データ	顧客のセキュアハッシュコード

2.1.1 RPA の作業スコープ

本プロセスにおいて RPA の対象となる作業および除外項目を以下に記載します。

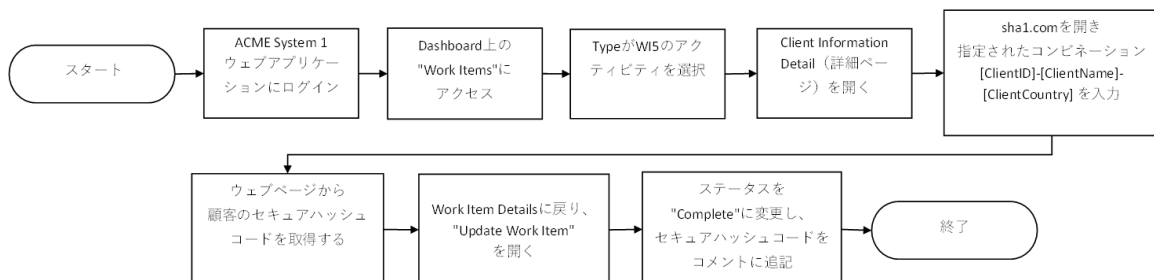
- RPA 対象範囲 - 該当の業務プロセスを 100%自動化

2.1.2 RPA の除外事項

RPA の除外項目となる作業はありません。

2.2 業務プロセス詳細

この章では選択された業務プロセスについて詳しく説明します。開発者はこの情報を参考にしてプロセスを自動化します。



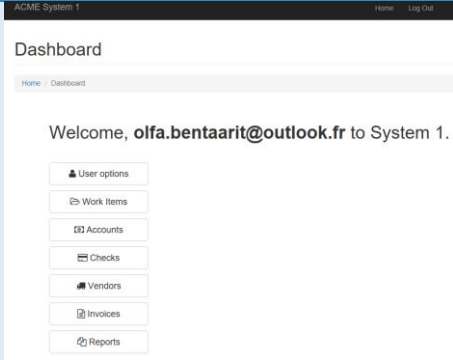
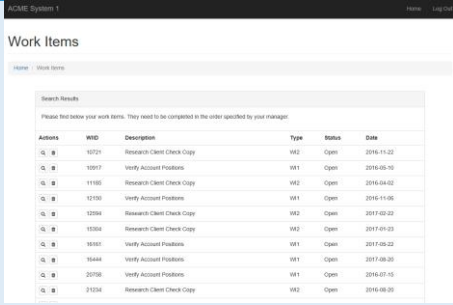
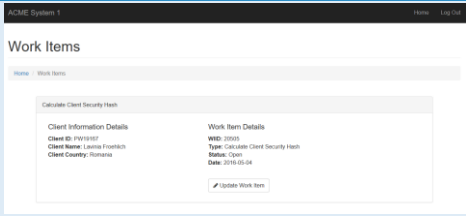

手順	簡単な説明
1.1	ACME System 1 ウェブアプリケーションを開きます。
1.2	ACME System 1 にログインします。必要な入力データ: メールアドレスとパスワード
1.3	Dashboard (メイン画面。メニュー項目を選択できます。) にアクセスします。
1.4	Work Items の一覧にアクセスし、実行可能なすべてのタスクを表示します。 (出力データ: Work Items)
1.5	Type が WIS と表示されている処理ごとに次の手順を実行します。
1.5.A	選択されたアクティビティの「Details」ページを開いて、顧客の詳細情報を取得します。

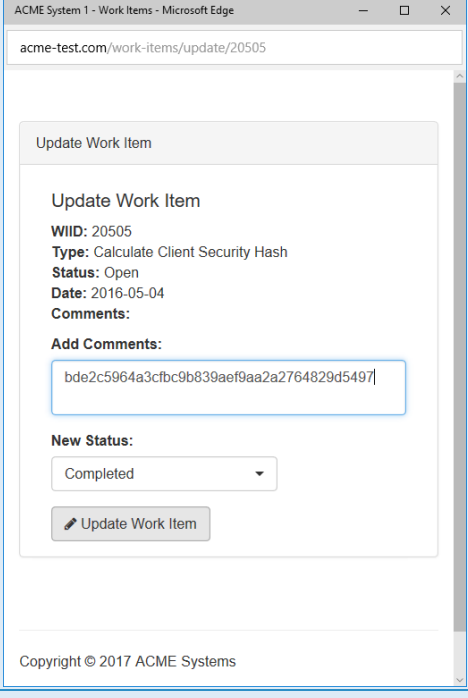
1.5.B	ACME SHA1 のウェブページ: http://www.sha1-online.com/ を開き以下の情報を入力します。 [ClientID]-[ClientName]-[ClientCountry] 変数部分是对应する値に置き換えてください。 項目間の区切りには前述のようにダッシュを使用します。
1.5.C	ウェブページから顧客の セキュアハッシュ を取得します。
1.5.D	Work Item の「Details」に戻り、「Update Work Item」を開きます。
1.5.E	ステータスを「Completed（完了）」に設定します。 取得した セキュアハッシュ にコメントを追加します。
1.6	次の WI5 の処理項目に進みます。

2.4 プロセス手順詳細

キーストロークやクリックなどプロセスにおける一連の手順はスクリーンショットを使って定義します。データに関して制約がある場合は、保険証券番号や顧客 ID、銀行の口座番号といった機密情報部分は見えないように処理します。

#	具体的な手順説明	スクリーンショット	想定される結果	備考
1.1	ACME System 1 ウェブアプリケーションをオープンする		ACME System 1 の画面が表示される	想定される例外と対処: -ウェブアプリケーションが使用できない場合は例外処理を実行
1.2	ACME System 1 にログインする。 必要な入力データ: メールアドレスとパスワード。		ダッシュボードにアクセスする	想定される例外と対処: -メールアドレスまたはパスワードが間違っている場合は例外処理を実行

1.3	Dashboard にアクセスする (メイン画面です。ここでメニュー項目を選択できます。)		メニューに各項目が表示される	
1.4	Work Items の一覧にアクセスし、実行可能なすべての処理を表示する (出力データ: 処理項目)		処理項目の表示	
1.5	WI5 タイプの 処理項目 ごとに以下の手順を実行する			想定される例外と対処: 「顧客のセキュアハッシュの算出」タイプのタスクが存在しない場合は例外処理を実行
1.5.A	選択されたアクティビティの「Details」ページを開き、顧客の詳細情報を取得する (出力データ: 顧客の詳細情報)			
1.5.B	SHA1 オンラインのウェブページ - http://www.sha1-online.com/ を開き、次の情報を入力する: [ClientID]- [ClientName]- [ClientCountry] 変数部分是对应する値に置き換える。 項目間の区切りには前			

	述のようにダッシュを使用します。			
1.5.C	ウェブページから顧客のセキュアハッシュコードを取得する			
1.5.E	Work Item の「Details」に戻り、「Update Work Item」を開く			
1.5.F	ステータスを「Completed（完了）」に設定する。取得したセキュアハッシュコードをコメントを追加する。			
1.6	次の WI5 アクティビティに進む			

2.5.例外処理

オートメーションプロセスで確認可能な例外タイプは下記表のとおりに分類できます。

分野	既知	不明
ビジネス的例外	以前に経験した状況。想定されるシナリオが定義されていて、事例ごとに処置や対策が明確に定義されている	一度も経験したことのない状況。外部要因が原因の可能性

上記の基準を参考に、処理中に確認された既知の例外は全て以下の表に記録し、ロボットでの対応が必要な想定アクションを事例ごとに割り当てます。

表には必要なだけ行を挿入し、すべての例外をリスト形式で詳細に記録します。

#	例外名	例外が発生した手順	要因	必要な処置
1	メールアドレスまたはパスワードの誤り	手順番号 1.2	ユーザー名またはパスワードの誤りを示すメッセージが存在する場合	exceptions@acme-test.com に以下の内容のメールを送信します 「こんにちは。 ユーザー名またはメールアドレスが間違っています。確認のうえ、もう一度やり直してください。よろしくお願いします」
2	WI5 タイプの処理項目が存在しない場合	手順番号 1.5		プロセスを停止する

それ以外の予期しないあるいは未知の例外が発生した場合は、ロボットより、exceptions@acme-test.com にエラーメッセージのスクリーンショットを添付したメールによる通知を送信します。

2.6 エラーマッピングと処理

エラー、警告、通知はすべて、その説明とロボットでとるべき処置を事例ごとにまとめてリストに集約します。

オートメーションプロセスで確認されたエラーは下記表のとおり分類できます。

分野	既知	不明
テクノロジー	以前に経験した状況 - アクションプランまたは対処方法がある	一度も経験したことのない状況、またはプロセスで使われたアプリケーションが原因で発生した可能性

上記の基準を参考に、プロセス中に確認されたエラーはすべて以下の表に記録し、ロボットでの想定アクションを事例ごとに割り当てます。

表には必要なだけ行を挿入し、すべてのエラーをリスト形式で詳細に記録します。

E #	エラー名	エラーが発生した手順	要因	必要な処置
1	アプリケーションが応答しない / ページが読み込まれない	すべての手順	応答不可 / 空のページ	再試行を 2 回実施。 アプリケーションを終了してシーケンスを再実行

*必要に応じて追加のエラーマッピング表を挿入し、詳しい説明を記載してください。

2.7 対象アプリケーション詳細

次の表では、自動化されたプロセスの一部として使用される全アプリケーションを一覧で表示します。

#	アプリケーション名とバージョン	システム言語	ログインモジュール	インターフェース	環境 / アクセス方法	備考
1	ACME System 1	EN	ウェブ	ウェブ	ウェブブラウザ	

3.開発詳細

3.1 開発の前提条件

- 開発用に開発またはテスト環境が用意されていること。
- 用意する開発およびテスト環境は稼働環境とまったく同じであること。
- 開発者には、十分な権限を設定したシステムおよびアプリケーションに対するアクセス権を付与されていること。

3.2 パスワードポリシー

パスワードをユーザー自身が管理します。それ以外のポリシーは特にありません。

3.3 資格情報とアセットの管理

ログイン用のデータ（ユーザーID とパスワード）は **Windows 資格マネージャー** または **UiPath Orchestrator のアセット** に保管します。

4. 文書の承認フロー

バージョン	フロー	役割	名前	組織（部門）	承認と日付：
1.0	文書の作成者	ビジネスアナリスト	姓・名		
1.0	文書の承認者：	業務プロセスの責任者	姓・名		
1.0	文書の承認者：	開発/RPA ソリューションアーキテクト	姓・名		

5.その他

5.1 UiPath 自動化プロセス詳細

注：この手順は、オートメーションプロセス完了後に記入すること

オートメーション概要：（開発、テストなどの期間）

ロボットのタイプ： Unattended Robot

人間による介入が必要なレベル：

Orchestrator の使用：

オートメーションプロセスに記録されている例外：

オートメーションプロセスで確認されているエラー：

オートメーションプロセスで確認されている問題：

その他変更事項：

「オートメーションプロセスを効率化するために行われた**調整事項**」および「人手による方法」を、オートメーション方式に転換するために取られた措置。

現状のプロセスを改善してプロセスのオートメーション率を上げるために実施された作業：

- プロセスの仮説の立案
- 入力データの仮説の立案
- 受け入れる入力データの数またはタイプ
- ログインインターフェースのスキップと背景情報の収集
- ファイルを開かずに背景データを抽出
- データ変換 / 書式設定

レポートの出力：ワークフローで提供されるログの出力方法と書式（ローカルログレポートまたは Orchestrator ログ）はここで指定

書式はビジネスユーザーが指定すること

ワークフローとスクリプト：各ワークフローとワークフローの実行シーケンスはここに簡潔に記載すること